

神戸市における里親委託推進のための検討会 主な意見（第1回～第3回）

1. 里親制度の広報・リクルートについて

- ・一定の広報はしているが、その効果が見えにくい。実際に委託につながる里親のリクルートについて、プロモーションの手法などの工夫が必要ではないか。
- ・里親制度を広く知ってもらうための広報については、実施する媒体や時期によってイメージが変わると、効果が薄れてしまうので、自治体内で統一感をもって実施する必要がある、また官民が協働して一体的に実施しなければ効果は得られにくい。
- ・市域全体の広報は行政機関が担い、個別のリクルートについては区域ごとに別の里親支援機関等が実施することも考えられる。
- ・里親制度についてまずは市民に広く知ってもらったうえで、ターゲットを絞った里親のリクルートにつなげていくのが良いのではないか。そのために、毎年の里親月間だけ広報するのではなく、常に市民が目にするような形での広報が必要。
- ・特別な人だけが里親になれるという考え方ではなく、里親になろうという思いを持った人に里親になってもらって、そういう人をしっかりとサポートしていくための体制をつくっておく必要がある。

2. 里親の確保について

- ・より多くの子どもを里親委託していくためには、養子縁組を希望しない養育里親を毎年一定数確保していくことと、里親委託後の支援を充実させていくことが必要。
- ・確保すべき里親の必要数を見込むうえで、里親として一定年数活動した人がリタイアしていくことも想定しておく必要がある。

3. 未委託里親の課題について

- ・未委託となっている里親の意向や状況をあらためて確認して、今後実際に委託ができるかどうかを再アセスメントする必要があるのではないか。
- ・養子縁組が成立した後も里親登録を継続している未委託里親に一時保護委託等をお願いすることも考えられると思う。

4. 学齢期以降の児童の里親委託について

- ・乳幼児の場合と異なり、学齢期以降の児童の里親となろうとする人は児童福祉や教育の経験者等が中心であり、人数的には多くはない。思春期特有の難しさもあるため、段階的に委託期間を長くしていくことや、委託後の手厚いサポートが必要になる。
- ・学齢期以降の里親委託を進めていくためには、児童養護施設等に入所中の子どもの再アセスメントを行ったうえで可能な場合は、子どもの意向も確認しながら、里親支援専門相談員等と連携して、家庭復帰や里親委託等を進めていくことも重要。

- ・施設に入所している子どもについては、まずは家庭復帰に向けた検討や支援を行っており、それが難しい場合は里親等への委託を検討しているが、いずれもすぐには難しいときには、週末里親や季節里親の事業を利用して家庭での生活を経験してもらっている。この週末里親や季節里親が里親登録者である場合は、子どもの意向も確認しながら、その里親宅への委託に向けて積極的に支援していくことも大切。

5. 里親家庭に対する養育支援の体制について

- ・里親同士がサポートしあえる仕組みとして、例えば各区単位での里親のネットワークづくりや、里親支援事業を一部の区でモデル実施すること等も検討してはどうか。
- ・里親による養育環境を充実させていくことが、結果として里親委託を進めることにつながっていくと思う。
- ・里親家庭で子どもを養育しやすくする環境をつくるために、保育所入所にかかる優先的な取り扱いや、保育所以外でも一時的に子どもが預かってもらえるような地域資源を充実させていく必要がある。
- ・里親が子どもの養育について不安やストレスを感じたときに、組織ではない、里親個人同士のつながりの中で思いを吐き出せるような仕組みを持つておく必要がある。
- ・里親が委託された子どもを養育するにあたって、一般の子育てとは異なる特有の悩みもあり、里親同士でなければわかってもらえないこともある。そういう時に里親同士で支え合う仕組みについて、現状でも様々な団体等が交流の場を設ける等の取組を行っているが、十分に知られていないこともあるので、里親が上手くそういう場を活用できるように支援していく必要がある。

6. 里親・ファミリーホームの養育者への研修について

- ・里親のモチベーション向上やスキルアップの機会として、研修を受講する機会やそのための支援体制の確保が必要ではないか。現状では、里親の新規登録や5年ごとの登録更新時の法定研修の受講は義務づけられているが、それ以外の研修は受講していない里親も多い。里親が子どもを養育していく上で難しい課題があることも多く、それが原因で養育が続けられないということのないように、里親が勉強する機会が必要。

7. こども家庭センター（児童相談所）の体制について

- ・児童相談所での勤務経験の浅い職員が増えたこともあり、里親委託にかかる実親からの同意取得や里親委託後の支援のためのスキルが十分ではないように思う。
- ・里親のマッチングや委託後の支援には高い専門性が求められるため、担当する職員の計画的な育成が必要。

8. 里親支援機関・里親支援専門相談員について

- ・神戸市には多くの里親支援機関があり、それが強みにもなるが、現状では各施設の取組内容に差があるように思う。
- ・各施設に配置されている里親支援専門相談員が行う支援についても、スーパーバイズの体制が十分ではなく、ソーシャルワークの質の向上が課題。
- ・里親に対する研修を複数の機関が実施しているため、児童相談所として個々の里親の状況が把握しにくいのではないか。
- ・里親支援専門相談員が所属している組織が異なるため、市としての統一的な理念のもとで、行政機関等がリーダーシップを取りながらマネジメントしていく必要があるのではないか。

9. その他

- ・乳幼児の里親委託を積極的に進めていく必要がある。
- ・多くの課題があるが、優先順位をつけて戦略的に取り組むことが求められる。
- ・数多くの里親支援機関がある中で、全ての里親支援機関が横並びで支援していくのではなく、役割分担を明確にして、支援体制を構築していく必要があるのではないか。他の自治体の例なども参考にしながら、児童相談所と里親支援機関の役割分担や共同体制について検討していく必要がある。
- ・将来的に里親支援センターを設置するのであれば、設置の趣旨やその役割を明確にしたうえで、どのような団体が運営する場合でも、その考え方がぶれることのないようにしておくことが重要。